

## &lt; 運営推進会議における評価\_様式例 &gt; ※公表用

## 【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護大島
所在地	(〒 940-2104 ) 長岡市大島町字谷内甲 1161 番地		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

当事業所では、『介護が必要になった場合でも地域を離れることなく、自宅で暮らし続けていける』ことを理念としてサービスを提供しており、以下のような特徴があります。1つめは、看護小規模多機能型居宅介護であるため、医療ニーズのある方を中心に受け入れをさせていただいています。

2つめは、平均要介護度の高さです。当事業所のご利用者の平均要介護度は現在 3.0 であり、比較的中重度の方が多く看取りの方の受け入れもさせていただいています。そのため職員一人ひとりの高い専門性が求められ、日々研修や勉強会を通して研鑽を積んでおり、本来の理念である「中重度要介護者を在宅で支えられる仕組みづくり」の実践に取り組んでいます。

3つめは、ご利用者の馴染みの暮らしを一番に考えている点です。元々馴染みがあって且つ、生活圏域から出ない範囲として、登録ご利用者のお住まいから約 2km 圏内で密着したサービスを行っております。事業所が近くにあることにより、ご利用者の急な状況変化やご家族の急な用事の際などに臨機応変にサービスを組み替えられ、柔軟な対応が可能です。ご利用者やご家族の生活を総合的にサポートするために、事業所だけでなく、地域や医療・行政など関係機関と連携・調整を行い、地域包括ケアの視点に立って取り組んでいます。

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2020 年 11 月 8 日	従業者等自己評価 実施人数	( 14 ) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2020 年 12 月 19 日	出席人数 (合計)	( 6 ) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input checked="" type="checkbox"/> 自事業所職員 ( 1 人 ) <input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員 ( 1 人 ) <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( 1 人 ) <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の代表者 ( 2 人 )			

	□利用者 ( 0人)	□利用者の家族 ( 0人)	☑知見を有する者 ( 1人)	□その他 ( 人)
--	------------	---------------	----------------	-----------

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	策定なし		
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	策定なし	
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	策定なし	
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	①地域課題を話し合うために町内会長等の関係者の出席。→包括の協力を仰ぎ出席を目指す。 ②運営推進会議へスタッフの参加。 →参加しやすい日時の設定、業務調整。	①町内会長に代わり引き続き地域サークルの代表も務めておられる方2名よりご参加いただいている。予定通り会議も行えず、積極的な働きかけは行わなかった。 ②可能な限り調整は行ったが実現できなかった。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	策定なし		

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		項目 9 夜間帯の防犯対策に不安はないか。実際の場面でスムーズに対策が取れる様、意見にもあるように、勉強会やシュミレーションを計画すると良い。	夜間は施錠忘れがないよう職員が交代のタイミングで一緒に確認をするようにしている。特別な防犯設備が整っているわけではないため、警察などからも助言をいただきながら防犯対策の強化を図りつつ、事業所内でも防犯に関する勉強会を実施したい。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	策定なし	
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	項目 2 8 介護職員もカンファレンスに参加できると良いと思う。参加し、積極的に専門職としての意見が発言できるようにできたら良いと思う。	介護職員のカンファレンス参加。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	項目 3 2 参加されていない職員の方は、会議録をみて、どう感じているのか。参加できない職員の方が、どのような意見を持っているのか、知りたい。	関心の度合いは異なると思うが、自ら関わり情報発信できるよう会議へ参加できるよう調整したい。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)		策定なし	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよ そ でき てい る	あまり で きてい ない	全く で きてい ない		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			<p>・「抽象的で伝わりにくい」点については、どのように対応しているか？ →これまでの事例、実績を交えながら伝えたり、パンフレット（一般の方への配布を想定して作成したもの）をお渡しし説明している。</p> <p>・家族の負担の軽減には様々な負担があり、軽減することは在宅生活を継続するうえで大切。しかし、家族の要望や状況に加えて、利用している本人の要望を二の次にしてはいけないと感じる。（表現によっては、そう思ってしまう） →本人だけでなく家族の要望や就労状況なども考慮し、その必要性からサービス提供の判断をしている。決して</p>	<p>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</p> <p>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
						<p>本人の意向を無視しているわけではなく、誤解を与えるような記載（表現）をしてしまい大変申し訳ありません。</p> <p>・例えば、看取りの人数や良かった事例等の簡単な紹介などがあると、伝わりやすいと思います。</p> <p>→実績件数は昨年度2件、今年度は0件。これまで市内の居宅介護支援事業所に向けて看取りの事例紹介をしたこともあったが、今後実績があれば運営推進会議などでも情報提供していきたい。</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
<p><b>(2) 人材の育成</b></p> <p>① 専門技術の向上のための取組</p>							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み内容については分かりやすい。個別面談や目標を定めたことでの効果はみられているか。 →目標が明確になることで、より適切な研修や指導（内容・方法）、役割などについて判断しやすくなった。一緒に目標設定をすることで評価も伝えやすく、理解も得られやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	○				<p>・次年度の研修計画には既にリモート研修等の参加予定はあるか？</p> <p>→予定が確定している研修はないが、おそらく次年度以降もリモートでの研修機会は増えるものと考えられ、PCやタブレットの追加導入、Wi-Fi 環境の準備を進めている。</p>	<p>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</p>
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	○				<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・日々業務の中で声を出し合って情報共有している。月1回のミーティングも重要。</p> <p>・リアルタイムな情報共有、交換が申し送りノートやミーティング、ケース記録を活用し、それぞれの立場から行えているものと思われる。</p>	<p>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
<b>(3) 組織体制の構築</b>							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は把握できていない方もいたようですが、今年は把握できているか。</li> <li>→異動もあり全員から十分な理解は得られていない。しっかり理解、認識できるよう順番に運営推進会議への参加を実現させたい。</li> <li>・コロナ禍であり、開催方法も例年通りとはいかないことが予測される。今年度の課題が改善されるよう対策の検討をお願いしたい。</li> <li>→事業所内に限らず、サービス間でも対策、検討していきたい。</li> </ul>	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は十分な会議が行えていない状況ではあるが、頂戴したアドバイスは日々の業務に活かせるよう各担当(係り)と相談し反映できるよう努力している。</li> <li>・理解が難しい内容のものもある。</li> </ul>					



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	○				<p>・感染症対策により業務が増える中、大変なことと思うが、時間内に業務を終えられているということで、安心して働くことのできる就業環境の整備に努められていると思う。</p> <p>→引き続き適切な労務管理、就業環境の整備に努める。</p> <p>・介護ロボやタブレット等の導入予定はありますか？</p> <p>→介護ロボの導入予定はないが、すでにタブレットとPC、Wi-Fi ルーターは準備しており、IT化に向けた取り組みを進めている。また、腰痛予防、けが防止に関しては移動リフトなどの導入も法人には検討してもらえよう提言しつつ、一方で安全衛生推進者より就業前のストレッチなども職員へお願いしている。</p>	<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おお よそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				<p>・昨年度から具体的に対応を変えた部分はあるか？ →大きく何かを変えたことはないと思われるが、職員一人ひとりが異動で配属された職員であっても安心して援助に入れるよう、記録物以外にも次の援助の留意点や内容の確認などを短い時間ではあるが多く設けるよう意識して取り組んだ。</p>	<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○			<p>・夜間帯の防犯対策に不安はないか。実際の場面でスムーズに対策が取れる様、意見にもあるように、勉強会やシュミレーションを計画すると良い。 →夜間は施錠忘れがないよう職員が交代のタイミングで一緒に確認をするようにしている。特別な防犯設備が整っているわけではないため、警察などからも助言をいただきながら防犯対策の強化を図りつつ、事業所内でも防犯に関する勉強会を実施したい。</p>	<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			<p>・今後も対応を継続していただきたい。災害時等緊急時の対応について、利用者や家族は知っているか。 →大雨による冠水、洪水の危険性に関してはここ数年の経験（センターや自宅2Fに避難する、泊まりの調整をするなど）からイメージしやすく、また、コロナウイルス感染発症時に関しても対応についての案内はしている。事態が生じた時に家族が混乱、心配しないよう平時よりコミュニケーションをとり、随時確認をしていきたい。</p>	<p>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>II サービス提供等の評価</b>							
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間の継続した生活に着目したアセスメントに努めていただきたい。</li> <li>→引き続き自宅内の様子にも目を向け、援助が入らない時間帯の把握、情報収集に努めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</li> </ul>
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記の取り組みを実施したことでの変化はあったか？</li> <li>→医療依存度の高い方でも事前に看護から留意点などまとめた情報提供があり、より安心して受け入れができていられるように思われる。よりスムーズな受け入れができていたためなのかはわからないが、今年度は医療機関か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
						らの相談が増えており、受け入れ件数も伸びた。	
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			<p>・家族や本人の意向に沿った計画になることは勿論ですが、自立支援に資するよう、専門職としての意見や提案も含まれた計画にしてください。</p> <p>→引き続き本人、家族の意向の確認と反映、自立支援に向けたプランニングに努めていく。</p>	<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス計画書の作成、それに沿った介助。</li> <li>・家族、利用者からの意向をお聞きしサービス計画を立てている。</li> <li>・可能な限り意向を伺いプランに反映できるようにしている。</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○			<p>・事業所の評価では「おおよそできている」である。こういった部分が不足しているのかを明らかにすると、目標が立てやすいように思う。 →地域社会の中でより自立した生活が送れるような目標設定を心がけていく。</p>	<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			<p>・昨年度の課題が今年度の取り組みで改善されていることがわかった。引き続き対応していただきたい。 →今後も状況変化の予測、リスク管理を踏まえた立案ができるよう努めていく。</p>	<p>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○				<p>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状態悪化の際はその都度対応している。ミーティングを行い利用者一人一人の状態を把握している。</li> <li>・状態変化に応じてサービスパターンを見直したり、福祉用具など早期に検討している。</li> </ul>					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○				<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調を崩された時など必要に応じて週4～5日連泊されることもあるが、普段から訪問、送迎時に自宅での様子（夜間）を確認するようにしている。</li> <li>・その方にもよるが、なるべく自宅で過ごす時間が多く確保できるよう努めている。</li> </ul>				<p>・「なるべく自宅で過ごす時間を多く」とありますが、理由は何か。</p> <p>→現在ご利用いただいている利用者の多くから聞かれた意向。ただ、ご状態、環境によってはセンターで過ごす時間が増える場合もある。今後も緊急性、必要性を踏まえつつ通い、泊まりが過度に偏らないよう調整したい。</p>	



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○				<p>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>
<p><b>〔具体的な状況・取組内容〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護利用者は主治医へ報告書を毎月提出している。緊急的に情報提供が必要な場合は適宜報告相談を行っている。</li> <li>・医療機関、主治医とは時には受診に付き添い、あるいは訪問看護計画書を介して情報共有を図っている。</li> </ul>							
<b>(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な状況・取り組み状況からは評価ができないように思う。「よくできている」と評価したことがわかるような内容であると良いと思う。</li> <li>→左記の記述が項目に対し適切ではなかったため削除。毎日の状況を両職とも同時に把握ができ、介護と看護の</li> </ul> <p>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</p>
<p><b>〔具体的な状況・取組内容〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担はなされている。看護職が介護を行う場面も良く見受けられる。介護職は手が空いた時点で交代するように心がけている。</li> <li>・個々がそれぞれの役割を理解し対応できていると思われる。</li> </ul>							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよそ でき てい る	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	○				必要性を判断、随時サービス調整が行えているため。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	○	⊖			<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な状況・取り組み状況は「よくできている」印象を受けるが、「おおよそできている」となった理由は何か。</li> <li>→申し訳ありません。チェック間違いです。修正します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</li> <li>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<p>・どんなところが理解されづらいのか。その部分の説明について検討し対応を統一しても良いと思う。 →高齢世帯の場合はとくに理解が得られやすいようにイラストが掲載されたパンフレットを用いて説明はしているが、これまでのサービスのイメージが残っているのか通いと訪問、泊まりが同じ事業所、同じ職員が関わるといっても理解されていない場合がある。時間をかけて説明を繰り返したり、利用していくうちに理解されていく印象を受ける。また、訪問看護のところでは小規模とも体制が異なることから、利用者、家族だけでなく看護体制、看護を利用する場合としない場合の料金形態の違</p>	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよそ できて い る	あまり でき て い な い	全く でき て い な い		
						<p>いなどの質問がサービス事業所からも多くある。</p> <p>・「そもそも…」の意見は職員でもこのサービスについて、よくわからないというように感じます。早急に改善する必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>→上記の通り。これまでも理解していただけるよう市内のケアマネなどを対象に勉強会を実施してきたが、引き続き県小規模協議会とも連携しながらより認知していただけるようPRをしていきたい。</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・その都度説明を行っている。 ・高齢なご家族に対してはかみ砕いて説明するなど理解しやすいよう配慮している。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・終末期については処置するだけでなく丁寧に説明し理解していただけるよう心がけている。 ・利用者に対しては自分のやり方にこだわりがあり適切でない方法を選択する場合もある。説明を繰り返しながら安全性が担保できるよう助言、見守りをしている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○			<p>・家族の意向＝本人の意向でないこともある。それは元気な頃の関係が影響していることもあると思う。</p> <p>・直接、聞いて確認することは難しいことだと思う。まだ、終末期ではない利用者についても、普段のケアを通して、「どのように最期を迎えたいのか」を確認していく（感じとっていく）ことも必要かと思う。</p> <p>→左記の通り、お聞きできる時に話題に出すこともあるが、「まだそこまで考えていない」という反応が多くみられる。もちろん即答を求めているわけではないが、終末期の過ごし方について考えていただくきっかけになるとありがたい。</p>	<p>✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・すでに重度な方など意思が把握できないケースもある。生き方の意向を予め伺う機会を持つ必要がある。（家族の意向が、本人の意向をベースにして決められるようにサポート出来たら良い）。</p> <p>・終末期についてはまだお元気で家族もイメージできないこともあり意向が確認できていない方もいる。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○			<p>・在宅生活の継続の可否は誰が決定するのか。最期が近くなった段階で、家族もいない病院で最期を迎えることを望む人は、どのくらいいるのか。ご家族にとって、一度しかない、その方の最期の時間がより良いものになるように支援をお願いしたい。</p> <p>→「最後」が突然訪れたり、家族のいない方もいる。その方にとって少しでも後悔のないようできる限りの支援をしていきたい。</p>	<p>✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>・ある一定の段階にならないと”生活の場”をどうするかの話し合いは出来ない。(家族もイメージできない場合が多いため) 自分の意思を伝えられる時に考えて貰えるようなサポート(仕組み)が必要。</p> <p>・入退院時など特に確認するようにしている。</p>					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	○				<p>・看取りのケース振り返りをするのも良いと思います。</p> <p>・「よくできている」の評価であることは、サービスをPRする上での貴事業所の強みだと思います。</p> <p>→事業所説明や内外部における研修などで事例紹介していきたい。</p>	<p>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>・ケアマネや看護が主に行っている。</p> <p>・現在、終末期ケアの方は受け入れていないが体制は出来ている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○			<p>・介護職員もカンファレンスに参加できると良いと思う。参加し、積極的に専門職としての意見が発言できるようにできたら良いと思う。→今後積極的に調整していきたい。</p>	<p>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・退院前カンファレンスなどがコロナの影響で積極的に行われない状況であるが可能な限り早い段階から関わり、退院直後からサポートできるよう意識している。</p> <p>・カンファレンスはケアマネ、看護が行っている。介護は参加できる機会が少ない。</p>					



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			<p>・取り組み内容と「おおよそできている」の事業所自己評価は一致しているのか。</p> <p>・情報共有は、直接会って行うことができない場合もある。その場合は参加する職員に介護職としての意見を伝えておくことができるの良いのではないか。</p> <p>→登録者の多くは看護を利用しており、緊急時の対応方針について主治医と事業所とが共有ができている。その他の利用者についても入退院などがあつた方や急変のリスクが高い方などはできているが、それ以外の方については家族との共有に留まっている。家族を通じて主治医へ意向をお伝えいただくよう働きかけていく。</p>	<p>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</p> <p>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよ そで きてい る	あまり で きてい ない	全く で きてい ない		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の評価は「おおよそできている」だが、具体的な状況・取り組み内容からは、「よくできている」ではないかと思う。</li> <li>→可能な限り迅速に対応しているつもりだが、家族が遠方だったり、身寄りのない方など後見人では対応ができず、時間を要す場合もあるため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</li> </ul>
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で対面での会議ができない状況が続いた。書面開催を「会議」のように効果的な内容にするためには、頂いた意見や質問をまとめるだけでは足りない。大変だったと思う。</li> <li>会議の意見は有効に活用できているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</li> <li>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</li> <li>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象で</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
						→通常開催ができた時など 実習生の受け入れについて 非常に参考となるご意見を いただき活用させていただ いた。	す
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録につい て、誰でも見ることができ るような方法での情報発信 が、迅速に行われている		○			・(参加されていない)職員の 方は、会議録をみて、どう感 じているのか。参加できない 職員の方が、どのような意見 を持っているのか、知りたい。 →関心の度合いは異なると 思うが、自ら関わり情報発信 できるよう会議へ参加でき るよう調整したい。	✓ 「誰でも見ることができる方法 での情報発信」と「迅速な情報発 信」の2つの視点から、充足度を 評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・玄関の共用部分に掲示してある。 ・コロナの影響により外部の方がいつで も見ることが出来る状況にはできなかつ た。職員はいつでも確認できるようにフ アイリングされている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている			○		<p>・今の状況は、すぐに改善しようにはないので、新しい方法を検討することが必要ではないか。</p> <p>→あらゆる方法を考えたいと思うが、このように実施したところがあったなど情報提供を市にもお願いしたい。</p>	<p>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</p> <p>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</p> <p>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</p>
<p><b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b></p>							
<p>① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供</p>							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	○				<p>・登録者以外の訪問看護はどのくらい実施しているか。訪問看護事業としてのPRも必要ではないか。</p> <p>→自己評価を行ったR2.11の実績では67件。看護小規模と訪問看護ステーション兼務であるため、双方のバランスをみながら受け入れを行っている。</p>	<p>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</p> <p>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よく</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足  できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の取り組みはどうか。在宅療養で吸引が必要な方もいると思うので、体制を整えられると良いと思う。→日中のみであったり夜間も緊急的に必要となる場合であれば対応が可能であるが、夜間に定期的に吸引が必要となると現在の体制では難しい。仮に体制を整えようとしても現行の介護報酬、加算では困難であると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・35と同じ。→35同様。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よく</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足  できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	○				<p>・PR してください。在宅での看取りはニーズが多いと思う。 →27同様。事例紹介を通じて周知を図りたい。</p>	<p>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</p> <p>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		○			<p>・事業所の評価「おおよそできている」と具体的な状況・取り組みが一致しないように感じる。 「あまりできていない」という印象を受ける。 →全員ではなく、なかには理解が不十分だと感じている</p>	<p>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
						職員もいる。理解を深められるよう自己研鑽に励み、学びの機会を設けていく。	くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の集合住宅等に限定していない。</li> <li>・半径 1.5～2.0km 圏内の方。</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において実際の受け入れは叶わなかったと聞いたが、看護実習生の受け入れを前向きに検討するなど、広く「これからのまちづくり」を考えているように感じた。 →実習生の受け入れに限らず、地域関係者の皆さんからの助言を参考に、様々な課題に対する意見交換を行いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</li> <li>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている			○		<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>	
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・家族に対して療養上の注意点や介護のヒントを助言したりモデルとして実際の介護方法を見ていただくことはあった。地域住民に対して取り組みを行う機会はなかった。</p> <p>・冬囲いや草取りなど地域住民の方がしてくださったこともあり、非常にありがたかった。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービス計画に沿って支援している。在宅生活の維持が出来ている。</li> <li>・ 概ね達成可能な目標を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 達成されていない1/3の利用者について、分析しているか。なぜ、達成できないのか、達成できない目標に特徴があるのか等。</li> </ul> <p>→ サービス事業所だけでなく、本人のレベル低下や家族の介護力・就労状況の変化、コロナウイルスの影響により県外から来れないなどの要因があるため。</p>	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退院後のスムーズな医療の継続、状態変化時のタイムリーな看護サービスの提供は出来ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2と評価した根拠は何か。「安心感が得られているかどうか」は本人や家族の思いである。</li> </ul> <p>→ 満足度調査の結果から左記のように評価させていただきました。</p>	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今現在看取りに近い状態の方がいない。</li> <li>・意向確認が不十分な方もいる。</li> </ul>	<p>・37で「看取りの体制ができています」としているが、評価が低いのは、なぜか。</p> <p>→チェックの間違いです。</p> <p>「5. 看取りの希望者はいない」です。申し訳ありませんでした。</p>	<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>